



会報

一般社団法人 人間力認定協会

理解は支援の第一歩！

支援の輪を拡げよう！

発達支援の輪、さらに拡大

資格・教育・情報の三方向から

いつも当協会の理念にご賛同いただき、心より感謝申し上げます。今号でも、支援の輪の広がりを実感できるご報告が続いております。

まず、学びのメディア「日本の資格・検定」が発表した「日本の資格・検定 AWARDS 2026」において、当協会の「メンタルヘルス支援士」が総合アクセス部門で第二位を受賞いたしました。発達障害とメンタルヘルスの関連性を学べる資格として、多くの方に関心をお寄せいただいている結果と受け止めております。

また、愛知県にある理学・作業名古屋専門学校では、二〇二六年度カリキュラムより「児童発達支援士」「発達障害コミュニケーションセッションサポー

ター」を授業に導入いただきました。作業療法士を目指す学生の皆様に、発達に関する専門的なスキルはもちろん、自己肯定感やコミュニケーション力とといった「人間力」を高めていただくことを目的とした導入です。

さらに今号では、療育施設選別に役立つ新サイト「安心して選べる療育施設ガイド」の開設、そして言語聴覚士へのインタビュースもご紹介しております。

このように、さまざまな形で支援の輪が広がっていることを、皆様と分かち合えれば幸いです。今後も「理解は支援の第一歩」を合言葉に、共に歩んでまいります。

理事長コラム

今号でご紹介した専門学校への導入も、支援の輪を拡げる取り組みのひとつです。これから医療の現場に立つ学生の皆様が、発達の特性を理解する力と人としての土台を育んでくださることに、大きな意義を感じています。この受講の一つひとつが、未来の支援の質を築く積み重ねだと感じています。そしてその未来を待つまでもなく、今この瞬間も日々お子さんと向き合う保護者の皆様、療育施設のスタッフの皆様がいっぱいいます。学生たちが学ぶ背景には、皆様が積み重ねてこられた経験があります。その積み重ねに、心より敬意を表したいと思います。

学ぶ人が増えることも、支える人が報われることも、支援の輪を大きくする力です。当協会は今後も発達障害への理解を社会に広げてまいります。今後とも皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 人間力認定協会

代表理事 井上智之

受講者の声から生まれた「安心して選べる療育施設ガイド」 「CDQ 認証サイト」新規開設



安心して選べる療育施設ガイド
CDQ 認証で、支援の質が見える

優良施設

11,552 件

CDQ 認証施設

270 件



療育施設検索

CDQ 認証とは

児童発達支援士コラム

専門家コラム



エリアから探す

+

こだわりから探す

≡

施設名で検索

検索する

施設選びの負担を軽く

このたび当協会では、療育施設選びに役立つ新しい情報サイト「安心して選べる療育施設ガイド（CDQ 認証）」を公開いたしました。CDQ 認証とは、児童発達支援や放課後等デイサービスなどの療育施設について、支援の質や情報公開の状況をわかりやすく整理し、保護者の皆様が安心して施設を選ぶようにするための取り組みです。療育施設の情報量は年々増える一方で、保護者の皆様からは「どの施設が合うのかわからない」「ホームページだけでは支援内容が見えにくい」といった声を多くいただきました。

そこで、施設名や所在地だけでなく、保護者評価や情報公開の透明性、支援内容を複数の視点から確認できるサイトを立ち上げまし

た。サイトでは施設を「優良施設」と「CDQ 認証施設」の二種類で紹介しています。「優良施設」は保護者評価などをもとに一定の基準を満たした施設、「CDQ 認証施設」はさらに詳細な情報提供やアンケート協力により具体的な支援内容を確認できる施設です。

現在、認証施設は一万件を超えており、今後も毎年更新をしてまいります。掲載料は一切いたっておりません。コラムも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。情報掲載や CDQ 認証をご希望の施設関係者様は、サイト内のお問い合わせページよりご連絡ください。

CDQ 認証サイトは
下記よりご覧ください



言語聴覚士にインタビュー 吃音・構音の悩みにどう向き合うか



ことばと
声の相談室
コトベル



動画は
下記より
視聴可能



専門家インタビュー

当協会では、東京都港区にある「ことばと声の相談室コトベル」代表であり、言語聴覚士として多くの子どもと保護者の支援に携わってこられた渡邊寛幾先生にお話を伺いました。

渡邊先生は、吃音や構音障害、ことばの発達の遅れなど幅広い相談に対応されています。印象的だったのは、知的な遅れと自閉スペクトラム症を併せ持つ五歳の男の子のエピソードです。ことばでのやり取りが難しく、伝わらないと痛癢を起こしてしまう状態でしたが、絵カードを使ったコミュニケーション手段を取り入れ、根気強く取り組んだ結果、自分から要求を伝え、三語文まで作れるようになったといいます。五歳前後で発音の誤りや吃音を自覚し始めるお子さんが多

い一方、繊細なお子さんはもっと早い段階から「どうせ伝わらない」という気持ちが生ずることもあるそうです。「伝えたいのに伝わらない」という経験の積み重ねは、自己肯定感に大きく影響すると渡邊先生は語ります。ことばの発達を支える土台として先生が大切にしているのは「概念の広がり」「聞く力」「伝えたいという意欲」の三つ。正しい発音や構文だけがことばの価値ではなく、それをどう使って人と関わるかに意味があるという視点は、当協会が大切にしている「人間力」「非認知能力」にも通じるお話でした。

会報では一部のみのご紹介となりますが、当協会の公式YouTubeチャンネルにて全編を公開しております。ことばの発達でお悩みのご家族や支援者の皆様はぜひご覧ください。

拡がる認定支援士の輪

新たにご登録いただいた認定支援士のご紹介

(2026.3.1 ~ 2026.8.31 ご登録者)

個人情報保護のため、ぼかしを入れています

認定支援士より頂いたメッセージをご紹介します

(全員のメッセージを紹介しきれないため、今回は一部の支援士のみをご紹介します)

東
エリア

団体名なし
高野 耕さん

―資格取得のきっかけは？―

会社員時代に仕事をしていた沢山のアルバイトの中に、今思えば、発達特性のある青年がいました。とても意欲がありながら、応募の時点で他の部署は全く採用の気配は無く、私の部署で採用しました。生産性基準で考えれば不採用でしょう。しかし、採用してみると、人が嫌がる仕事にも熱心で、単純作業を長時間こなし、半年後には無くてはならない存在になりました。世の中は才能を捨てていないか？その疑問がきっかけです。

―支援で大切なことは？―

自己肯定感を大切にするところが一番だと強く感じます。間違っても生産性だけで評価してはいけません。一緒に学び、身につけることが大切だと考えます。

東
エリア

団体名なし
匿名希望さん

―支援をして辛かった事は？―

お世話している子供の成長と共に発達障害があるかもしれないことが顕著になって来た時、ご両親にどう伝え、発達障害があるのかどうかを専門の医師等に検査していただくように提案する際、慎重に言葉を選びながらお話する時が辛かったです。

―支援で大切なことは？―

正しい知識とトレーニングを小まめにチェックし、新たな情報にも触れながら自身の研鑽に努めて、その子供の特性に合わせたアプローチをするように意識して人間関係も含め日常生活をスムーズに過ごせるように支援を行っていくことが大切だと思います。

東
エリア団体名なし
匿名希望さん

「似た境遇の方にアドバイス
子どもが小さかった頃は、
終わりが見えず、どうしたら
いいのか途方に暮れていまし
た。子どもが困っていること
は分かっている、自分の気
持ちやメンタルを整えること
が難しく、焦ったり不安に
なったりする毎日でした。
しかし、子どもは一人ひと
りのペースで少しずつ成長し
ていきます。私の子どもも今
では大学生となり、友だちと
楽しく過ごし、自分の世界を
広げています。大変だとは思
いますが、見通しが立たず不
安になっても、まずは子ども
を信じて支えてあげてほしい
です。」

東
エリア団体名なし
及川茉莉那さん

「支援をして辛かった事は？
私の子どもは長年発達障害
に苦しんできて上の子は小一
から自傷行為が出ていてノー
トはほとんど取らず、小三に
はISD検査を実施し、学校に
は苦手な事を伝えていて、長
年書字困難にも関わらず、必
要な支援を受けられないまま
小学校を卒業し中学に入学。
その後、自傷行為がエスカ
レートし、飛び降り未遂まで
いつてしまいました。毎日一
緒に暮らしていながら、自傷
行為が日常化してしまい保護
者としても深刻な状況に気付
けず、本人共に辛い思いをし
ました。
未だに改善には至っていな
いこともあり、今現在も辛い
状況ではあると思います。」

西
エリア団体名なし
入江典子さん

「知識を得て変わったことは
わがままや無気力は本人の
せいではないということがわ
かった。脳の特性や周囲の叱
責などからの自己肯定感の低
下などで体も心も限界まで疲
れていたことを学ぶ中で振り
返ることができた。脳の特性
だからADHDの次女は自分
の取り扱い説明書を作ること
に前向きになった。
「似た境遇の方にアドバイス
とにかく親子で抱えないで
ほしい。周囲に助けを求めて
ほしい。自分が産んだ子ども
だから自分がなんとかしなけ
ればと母親は責任感から孤独
に抱えがちになる。でもそれ
で道は開けることはないと言
い切れる。自分で抱えて解決
する話ではないことをまず
知ってほしい。」

～アンケートのご協力依頼～

療育エピソードを募集しています

皆様がこれまでに経験してきたことは、
これから経験する方にとって財産となり
ます。当協会では療育エピソードとして
体験談を募集し、受講者の皆様に共有し
ています。体験談が多ければ多いほど救
われる方は増えます。ご協力願下さい！

●特に募集中のエピソード●

- ・カサンドラ症候群に関するエピソード
- ・子どもに発達障害であることをどう伝えたか
- ・アンガーマネジメントに関するエピソード
- ・感覚過敏 / 鈍麻に関するエピソード

**療育エピソードサイト**<https://ninkyu.jp/member>

(協会 LINE から簡単にアクセス可)